

「犠牲の上にある人生」

～あなたはその犠牲を知っていますか？～ II コリ 5 : 17-21

■ 先人の犠牲によって今がある

今日は敬老の日。この時に、皆さんの人生を継承してくれた人がいるということに感謝をしていきましょう。なぜなら、あなたの人生に多くの方の犠牲が伴っており、今の私たちがいるのは様々な苦難を逃がずに闘った人たちがいるからです。中にはその人のためになされた犠牲が分からず逃げてしまう人もいますが、今日、私たちの人生は犠牲の上にあること、そして犠牲には土台がないと道を誤ってしまうことについて考えていきましょう。

犠牲には義の字が使われています。これは羊が十字架に裂かれるところに我がいるということであり、自らが犯した贖罪に対して代わりのものが裂かれたゆえに我があるということです。このことがあるからこそ私たちは正しく生きようとします。あなたはどれだけ多くの方の痛みと涙と祈りの中で生活できているか、キリストの歴史を引き継いできた多くの方の犠牲によって私たちに愛が伝えられたことを分かっているのでしょうか？そのことしっかりと受け止め、私たち自身が次の世代に引き継ぐことができるように、私たちの人生を確認していきましょう。

■ 犠牲を知ることは自分を知ること

私たちが教会に来るのは何のためでしょうか？旧約の時代、神様は「わたしを礼拝する場所をこのように作りなさい」と幕屋を指して言われました。そしてそこで礼拝するために人々は、まず最初に『感謝しつつ、主の門に（詩 100 : 4）』入り、次に甕に張られた水にうつる自らの姿を見つめ、そして自分の罪のために自分の命としていけにえを捧げていました。この感謝し自分の姿を見つめるという行為は、私たちが感謝できないときでも自分に与えられている環境がどれだけ感謝なことかを認識し、自らの姿を見て確認している行為、つまり今私たちが教会に来てしていることと同じです。私たちは自らを見ることがどれだけ大切かを知っています。そこに自分の本来の姿を認識することが大切です。それをしていけないと私たちはすぐに本来の姿を忘れて道を外してしまいます。本来の姿に戻るためにキリストを初めどれだけ多くの方がキリストの愛にたつて犠牲を払って今日まで生きてきたのかを知り、あなたの本来の姿を再確認しましょう。

■ 犠牲が理解できないと、繰り返す

自己中心では犠牲は分かりません。そして分からなければ同じ過ちを繰り返してしまいます。この世に戦争がなくならないのも各々が自分勝手な歩みをするからであり、戦争がなくならないのは「私」のせいなのです。しかし、もし自らが犠牲になることをイエス様の姿から受け取り、自分はどうか生きるかを考え努力するなら、たった一人の人が変わることでこの世が変わるかも知れません。ですから私たちが先を歩んでいる方々の生き様を通して、正しい生き方を確認できるように感謝するのです。多くの人の犠牲によって私たちは生きています。私たちの犠牲、それは一粒の麦です。そして自分に与えられたすばらしい恵みのなかの1割を蒔くことが犠牲です。私たちは悪魔の欲からキリストの犠牲により自由を得ました。自分の意志で良いことも悪いことも自由に決断できるようになりました。もし、あなたが犠牲を知るならば決して悪いほうは選ばないし、繰り返さないように努力するでしょう。

■ あなたに継承されているものを無駄にしないために

アダムからキリストへ続く系図があるように、キリストからあなたへ続く系図があります。もし、あなたが自分の癖によって人生を適当に感情的に生きるならば、今までの犠牲が無駄となります。私たちは先代までがどれだけの思いで継承したかを知り、変わらなければいけません。そのためにはエペ 6 : 1-4 箴言 22 : 6 にあるように、子については、自ら父母に従い敬って寄り添おうとする姿勢が大事です。そして親については、今は子どもに対して親が見守らずなんでもやってしまう時代になり、問題処理能力の欠けた子を作り上げてしまっていますから、親はただ生き様をみせること、手を出さずに見守ることが大

事です。子が自らで経験し、学べば自然と問題を解決する能力は身につきます。私たちは行くべき道に従っていくことが大事ですから、こういった経験を親、おじいちゃんおばあちゃんはその子から取り上げるのではなく、ことばや態度で教えなければいけません。見つめるところからはじめましょう。

■ 1 両親は神の恵み あなたの存在意義！

両親に感謝すると神様に感謝がかかります。なぜなら源は神様だからです。反対に、もし両親に感謝できないと神様に感謝できないということになります。ですから、父母は子どもに対し正しく生きる責任があります。それが結果、先を歩まれた方々の責任を負い、生き様を示すことになるのです。これは生きていく間には残せないもので、最後の最後まできちんとしないと後世に伝えることができないものです。神様の摂理に従い、あなたに与えられた時間にああなたの生き様をあらわしていきましょう。

■ 2 自らの尊さを知る メタ認知

あなたの心の中には「私の人生私の勝手」という思いがないでしょうか？私たちの人生は多くの尊い生き方、多くの犠牲の上に継承されているのですから、そのような自分勝手なことはいえませんが、このことは最終的にキリストが私のために犠牲になられたということですから、そんな自分勝手な思いにはならないはずですが、かえって、だからこそ私は罪を犯さない、人をさげすまない、呪わない、怒らないという決断ができるのではないのでしょうか。そのために大切なのが「メタ（＝高度な）認知」です。私たちは自分の癖や弱さ、良さ、尊さなどを高度に認知する必要があります。それは「自分の弱さや問題点、癖について知り、神様が計画された自分の本来の姿と照らし合わせたとき、このままでは後世に悪い影響を引き継いでしまうから悪い部分をもっとまっすぐにしていけない、変わろう」と認識し決断することを指します。本当に私たちは信仰においても何事においても感情に流されることなく、よく理解し認識して高度に引き継いでいかなければいけません。

■ 3 神様が見つめたようにあなたも見つめていく！ 安全地帯。

子どもにとって見つめられること、分かってもらえることが安全地帯です。ですから先を歩む人々は若い人たちが成功できるように見つめていきましょう。そのとき大切なのは手を出さないこと。その子が悲しいときは抱きしめてあげて、ただ見つめるだけにしましょう。そうすればその子は自然と自らで闘い、解決しようとする力を養います。私たちが最期を思い残すことなく神様の元へ行くには、お金ではなく正しい思いを残していく必要があります。その正しい思いが後世の繁栄となるのです。教会にはそうやって人生を見つめ、力になってくれる家族がたくさんいます。ぜひ神様に頼り一緒に歩いていきましょう。

私たちのこれから

私たちは神様の犠牲によって、どれほど愛されているのかわらなければいけません。そして、私たちが次の世代に神様の計画、自分が正しくいけることを継承していかなければいけません。若い父母にはできないことでも年を重ねた人はすることができるよう、最期までその人の役割はあるのです。あなたはどれだけ隣人を愛し、この地でキリストを継承することができるでしょうか。キリストの犠牲を通して最後の1分をも無駄にすることなく、老い得る中でも正しく生きていきましょう。そうすれば、あなたの賜物は飛躍的に用いられ、若い世代は先を歩む人の姿から学び、闘いはあってもそれを乗り越え、正しい道を行くことを決断することができるようになるのです。ですから私たちは、自身のそして隣人の弱さと同じ失敗を繰り返す悪い癖を、神様によって取り去られるように祈りましょう。そして、キリストの香りを放ち十字架に生きることを決断していきましょう。

(要約者:平澤 瞳)